

住民意見アンケート結果 「アンケート大作戦やってみよう！」

諏訪らしいバイパスを考える会

2022.3.6

アジェンダ

《第一部》

1. アンケート概要

- ・調査の目的
- ・調査対象・方法
- ・サンプルサイズ

2. 平成26年住民意見聴取

3. アンケート結果 全体編

【回答者属性・道路整備の必要性】

4. アンケート結果 諏訪市・下諏訪町編

【回答者属性・道路整備の必要性】

《第二部》

5. 自由記述欄「意見を伝えよう」

1. アンケート概要 【調査の目的】

(1) 諏訪バイパスの平成26年の2回に渡る住民意見聴取の実施について、若年層において実施そのものを認識していない実態があり、且つ当時の聴取世代が比較的高年齢層寄りの傾向があった。7年の年月を経て住民の年齢層と共に意識がどのようにアップデートされたかの実態把握のために実施した。

(2) 国交省「都市計画道路見直し」ガイドラインにおける「現状の都市計画は高度経済成長期における都市の拡大を前提に決定されたものが多く、近年の人口減少、低成長等の社会経済情勢の変化を踏まえると、都市計画決定後、長期間が経過し、その必要性に変化が生じつつある道路もある。」という観点において概ね20年後の共用開始となる当該バイパスに対し、低成長・環境重視の時代となったリアルタイムでの住民ニーズを把握するために実施した。

1. 調査概要 【調査対象・方法】

(1)調査対象及び調査方法

①調査対象 :中高生以上に対し無作為に要請

②調査方法 :

※全世代を対象とするため紙・デジタル双方での要請を実施

・SNSでのアンケートフォーム入力依頼

・「ばいばい☆ぱすぱす新聞」裏面での書面アンケート

・弊会webサイトでの案内・アンケートフォーム入力依頼

・クチコミ

③調査期間 :令和3年2月5日～令和3年3月5日

④調査費用総額 : 22,130円

1. 調査概要 【サンプルサイズ】

サンプルサイズ条件		全回答数	6市町村	諏訪市 下諏訪町
母集団数			191,475	66,906
信頼レベル	95%			
許容誤差	5%			
回答比率	0.5			
必要サンプル数			383	382
実際回答数		635	516	391

左記設定値より各回答の比率は95%の確率で、誤差は5%以下となる。

※人口数は令和4年2月長野県毎月人口異動調査結果より

2. 平成26年住民意見聴取【回収状況】

意見聴取の期間

平成26年2月6日（木）～3月7日（金）

意見聴取の対象

調査票配布				回収数		
住民等	郵送 全戸配布	諏訪市	24,174部 (20,519世帯)	合計 33,713部 (28,838世帯)	8,142部 (24%)	回収数計 8,626部
		下諏訪町	9,539部 (8,319世帯)			
	留置き	周辺市町村の市役所・町役場・村役場 (岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村の6箇所)	合計 400部	188部		
	We b	一般の意見を聴取		296部		
事業者等	郵送	諏訪市、下諏訪町の商工会 会員企業	449社	合計 559社	合計 214社 (36%)	
		諏訪市、下諏訪町の観光協会 会員企業	135社			
		諏訪トラック協同組合 組合企業	15社			

意見聴取期間

平成26年9月11日（木）～10月10日（金）

調査票形式、ヒアリング調査の実施状況

調査票形式		配布数		回収数 (カッコ内)は回収率		
住民等	郵送 全戸配布	諏訪市	24,215部 (20,620世帯)	合計 32,948部 (28,959世帯)	6,387部 (19%)	回収数計 6,809部
		下諏訪町	8,733部 (8,339世帯)			
	留置き	周辺市町村の市役所・町役場・村役場 (岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、 富士見町、原村の6箇所)	合計 400部	71部		
Web	一般の意見を聴取		351部			
事業者	郵送	諏訪市、下諏訪町の商工会 会員企業	445社	合計 593社	173社 (29%)	
		諏訪市、下諏訪町の観光協会 会員企業	133社			
		諏訪トラック協同組合 組合企業	15社			

2. 平成26年住民意見聴取【回答属性】

広報状況

①ホームページ
国土交通省長野国道事務所 ■長野県・周辺6市町村(バナー設置)
 皆さまの力で諏訪地域の未来を支えるみちづくりを進めます。
 一般国道20号長野県諏訪市～下諏訪町間の計画検討に関する第2回 地域の意見聴取 実施期間 10月10日(金)まで

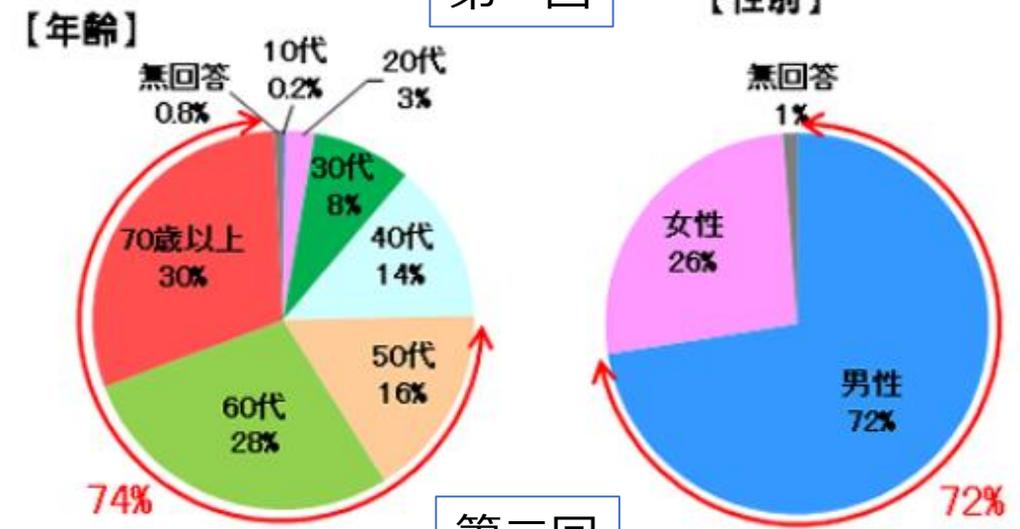
②新聞広告(H26.9.13 朝刊)
20 諏訪地域におけるルート検討で重視すべき点を教えてください
 一般国道20号の諏訪地域において、「縦断バリエーション計画」や「下諏訪町～下諏訪町間の計画検討」が実施されていますが、その際の諏訪市及び下諏訪町間の計画(約11km)についても、地域中交通等関係者から意見をいただき、その解決に努める道徳的計画検討を進めます。

③広報チラシ(A4判)
一般国道20号 (長野県諏訪市～下諏訪町間)
 ルート検討で重視すべき点について
 一般国道20号の諏訪地域における計画検討が実施されています。その際の諏訪市及び下諏訪町間の計画(約11km)についても、地域中交通等関係者から意見をいただき、その解決に努める道徳的計画検討を進めます。

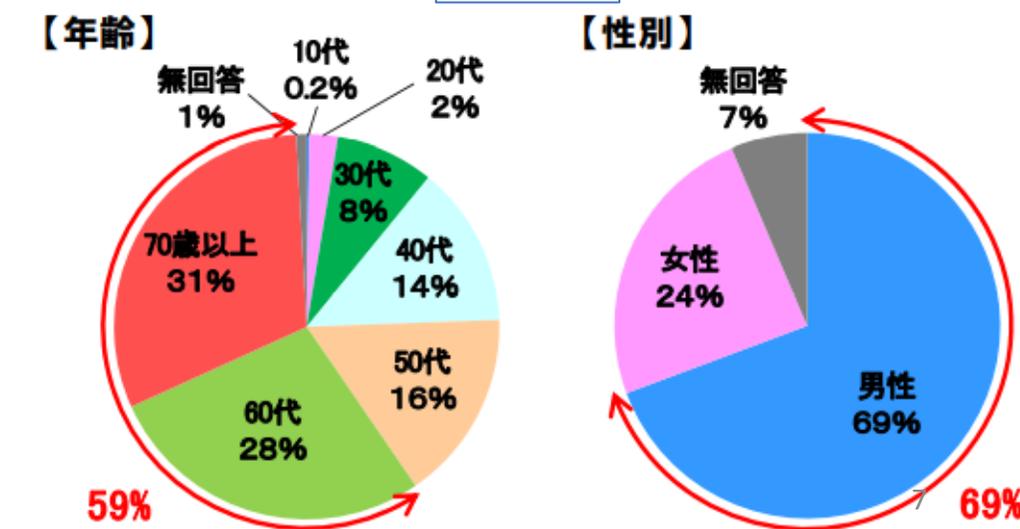
④ポスター(A2判)
 (下諏訪体育館)

⑤市役所・町村役場(留置き)
 (諏訪市役所)

第一回



第二回



【平成26年住民意見聴取の傾向】

①意見聴取は、諏訪市及び下諏訪町の全世帯を対象としたところ、男性の回答率が7割以上と高く、女性の割合が低い傾向。

②回答者の属性として、地域の実態と比べ、50代以上の回答者が7割以上と高い。

3. アンケート結果【全体編・回答者属性(居住地)】

広報状況

①Webの回答媒体

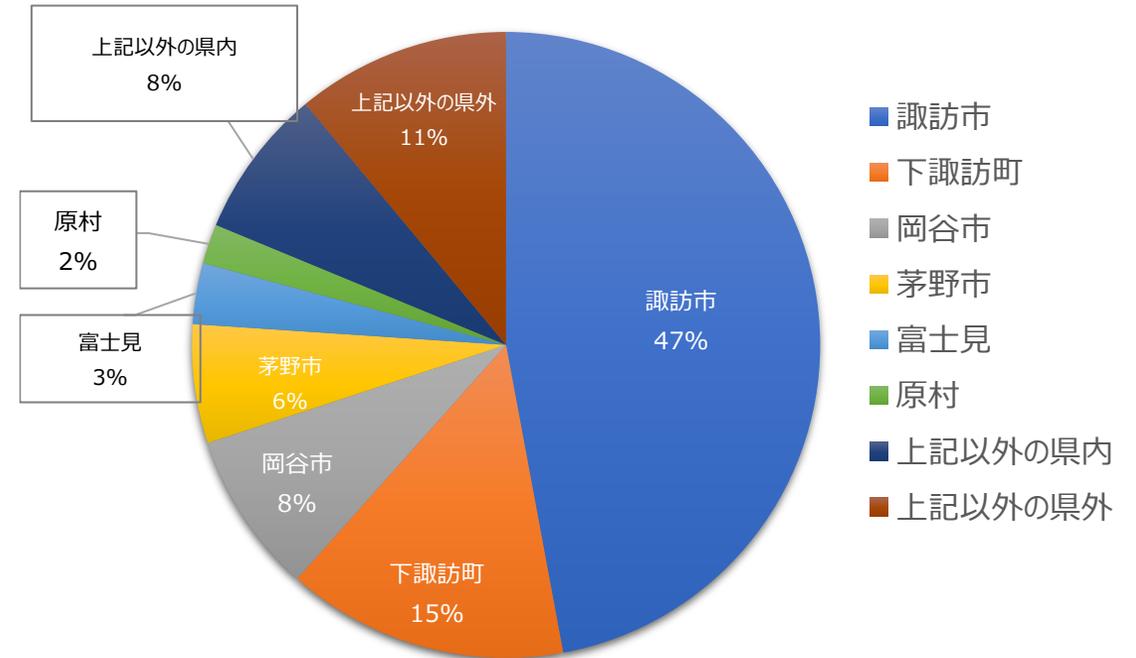


②弊会webサイト

③ばいばい☆ぱすぱす新聞



【回答者居住地】



アンケート大作戦!

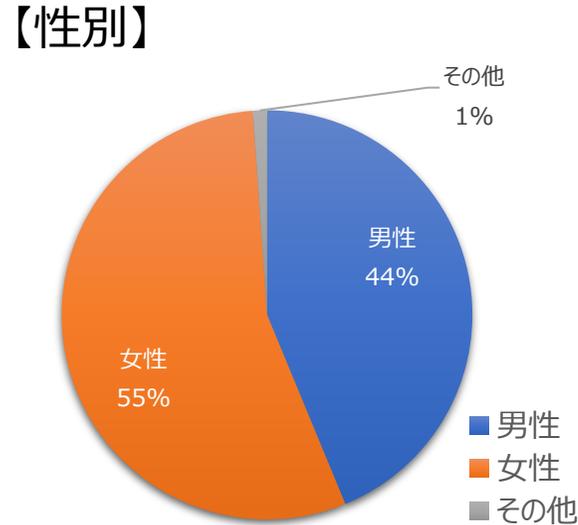
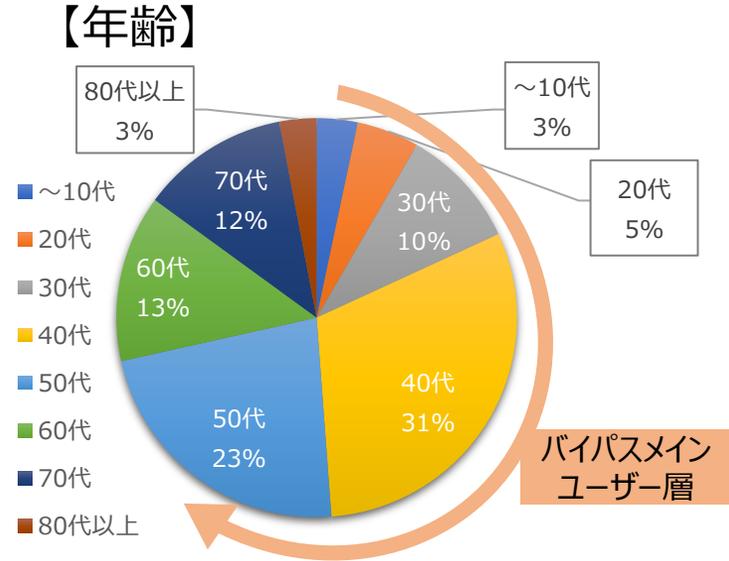
みんなはホントのトコどう思ってる?
今のリアルな気持ちを行政に伝えたい!

- ◆アンケート実施期間 2月5日(土)~3月5日(土)
- ◆アンケート回答方法
①以下URLをクリックしgoogle formで回答する。
<https://forms.gle/qgTa5TrDc4Wd2VC1Z>

※以下ご協力店舗様にて「ばいばい☆ぱすぱす新聞第2号」裏面に記入し回答

チャットしましょう

3. アンケート結果【全体編・回答者属性（年齢・性別）】

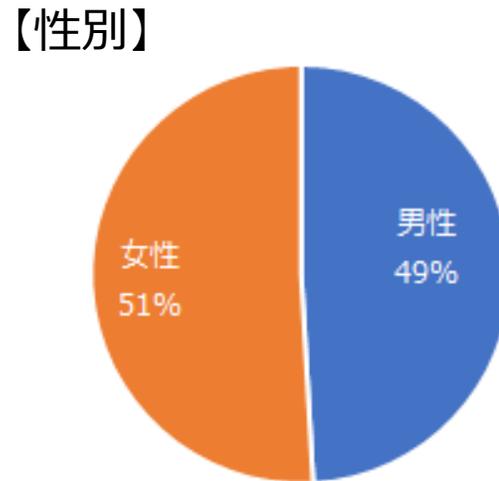
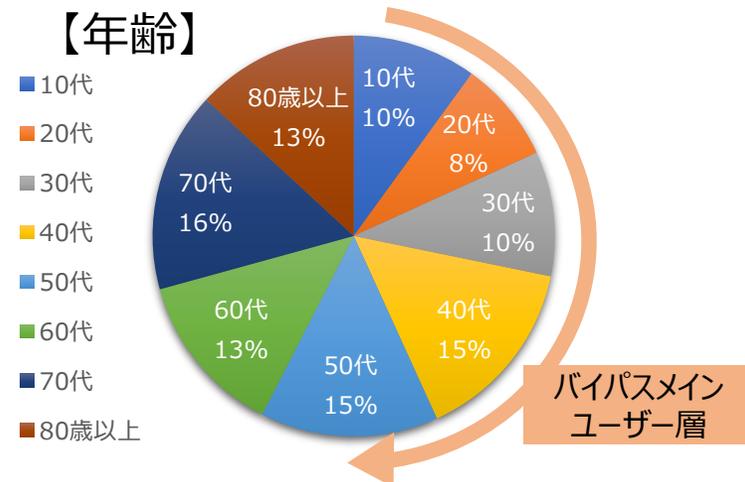


【今回のアンケート回答者の傾向】

①男性女性比率は平成26年の意見聴取の際よりも実態に近い値となり、女性の割合が高く意見を聴取できた。

②回答者の属性として、地域の実態と比べ、40代～50代の回答が多く、平成26年の調査より1世代若年層の回答を得られた。

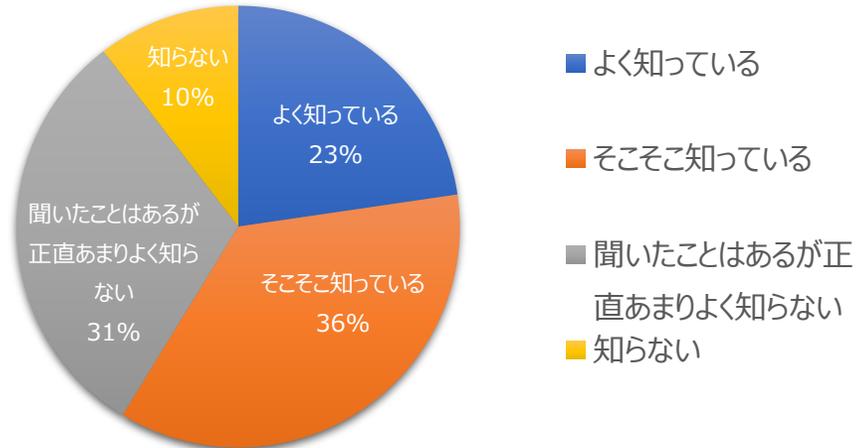
参考：6市町村別人口データ



3. アンケート結果

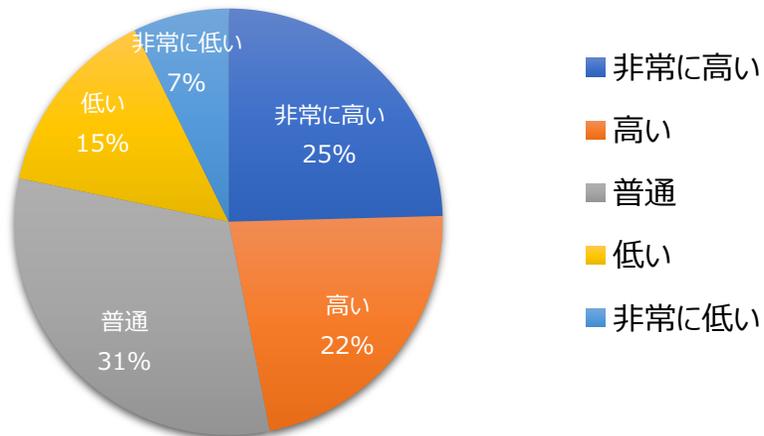
【全体編・バイパスの認知・関心度】

問①あなたは諏訪バイパス事業を知っていますか？



「よく知っている」～「そこそこ知っている」が全体の59%であり、まだ41%の住民がこの事業に対してあまりよく知らないという状況。

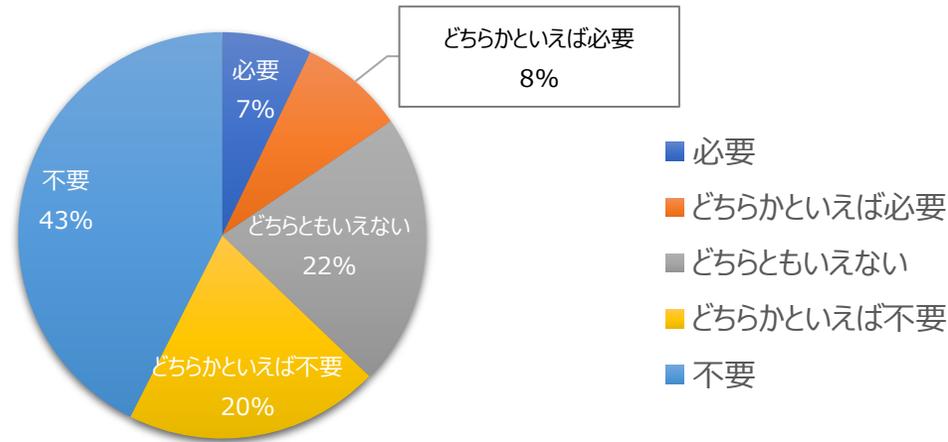
問②あなたの諏訪バイパスへの関心はどのくらいですか？



「非常に高い」～「普通」までが全体の78%となっており、認知度より無関心層が低い水準となっている。認知度と関心度の相関により、「関心は無くもないがよく知らない層」の存在もある状況がわかる。

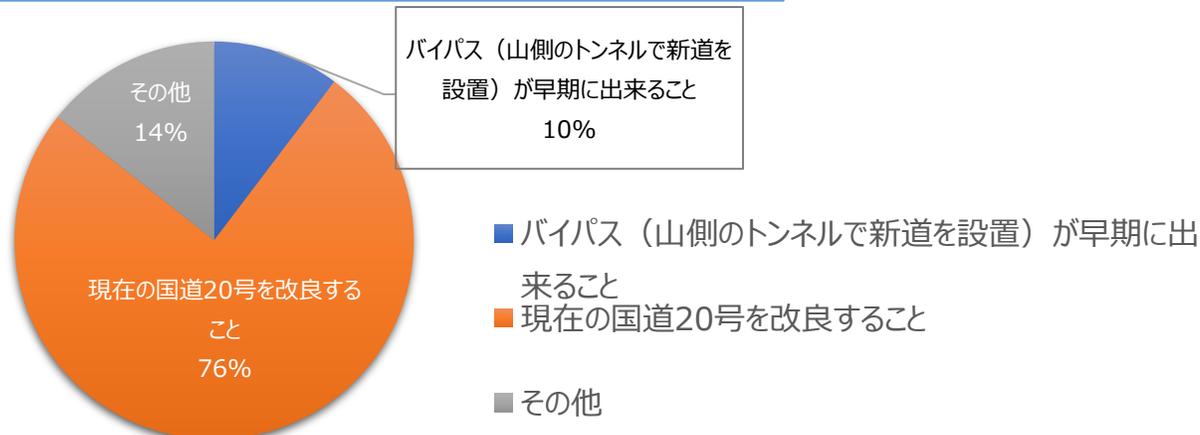
3. アンケート結果【全体編・道路整備の必要性】

問③あなたは諏訪バイパス（山側ルート）についてどう思いますか？



「不要」～「どちらかといえば不要」が全体の50%であり、「必要」～「どちらかといえば必要」が15%の状況。山側ルートに対する「環境変化へのリスク懸念＞必要性」の一定の意見が顕在化した状況。
※平成26年の意見聴取の後、平成28年の山側ルート決定発表

問④あなたの生活にとってどちらがより重要ですか？



「現在の国道20号を改良すること」と「山側ルート案のバイパス早期実現」では生活における重要度が高いのは前者であることが顕在化した状況。
※灰色部、意見多数にて次ページ参照

3. アンケート結果【全体編・道路整備の必要性】

問④あなたの生活にとってどちらがより重要ですか抜粋？その他（自由記述）欄

自由記述分類	類似回答
1、自然保護	18
2、歩道・自転車道の安全確保	6
3、税金使途の見直し（教育・福祉・環境等）	8
4、その他地域改善方策案の提言	20
5、よく知らないのだから答えてほしい	4
6、わからない	5
7、どちらも重要でない・どちらも不要	16
8、両方重要	2
9、バイパス（トンネル）建設のリスク不安	4
10、持続可能な計画への見直しが必要	1

その他地域改善法案の提言関連

中央道諏訪岡谷間の無償化

市が、町が、民間と協力して車以外の移動手段の選択肢をつくること。

駅や線路を高架化すれば良い

自動車から鉄道、自転車への転換

循環バスの充実

バス等の公共交通を充実させること

県道、岡谷、茅野線の改良

諏訪湖横断の橋、もしくは西街道の改良

自然保護関連

人口減の時代に突入していくので、道路を減らして豊かな生態系を取り戻すこと

故郷の自然環境や文化と共に、人々の生活が損なわれず豊かであるための方策が、民主的な手続きで整っていくこと。

諏訪の自然の資源を守ること

いまある自然を残すこと

歩道・自転車道関連

もっと子供たちや高齢の方たちが安心して歩けるような道の工事を先ず始めるべきだと思う。

歩行者や自転車が安全に通行出来ること

どちらも不要関連

今のままで充分

現状で不便してないです。

税金使途関連

道路はすでに沢山ある。税金は教育や福祉や環境に使って欲しい。

コロナ禍による生活支援

違うことに税金を使って

よく知ってから答えてほしい関連

問題をよく知ってから再回答したい

わからない関連

現在の国道は狭くて改良は必要かもしれないけれど、バイパスが必要かといえばどうなのか正直なところわからないです。

両方重要関連

現国道の改良と、バイパスの早期設置

トンネルリスク不安関連

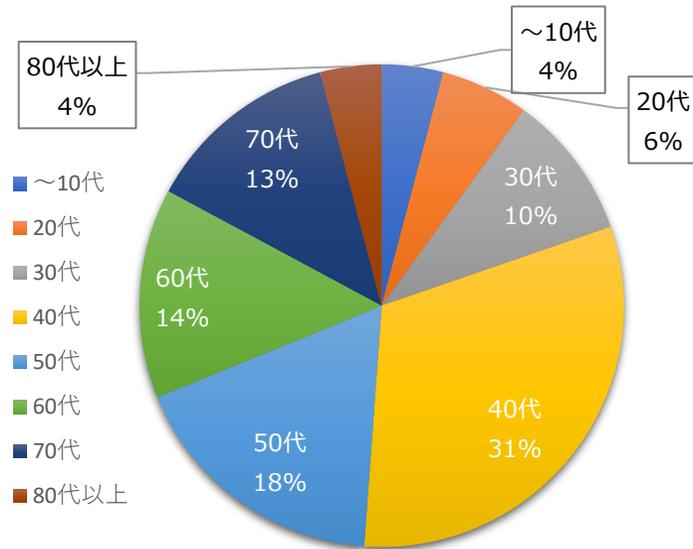
トンネルの影響は予測しきれない

トンネルはやめて欲しい。

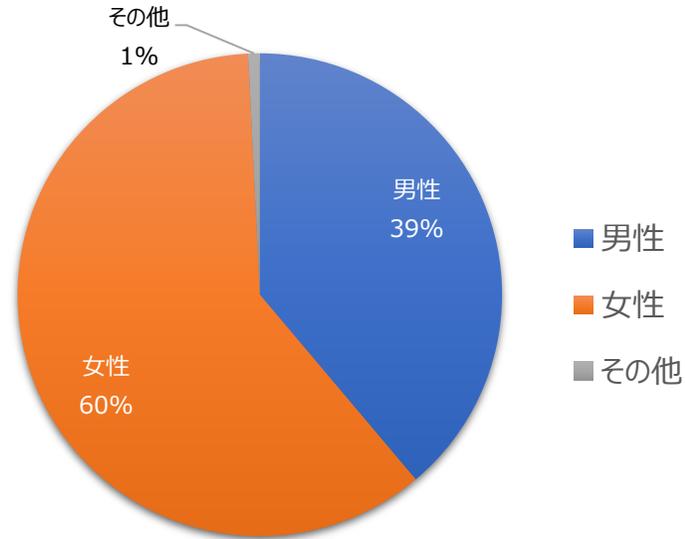
4. アンケート結果

【諏訪市・下諏訪町編・回答者属性】

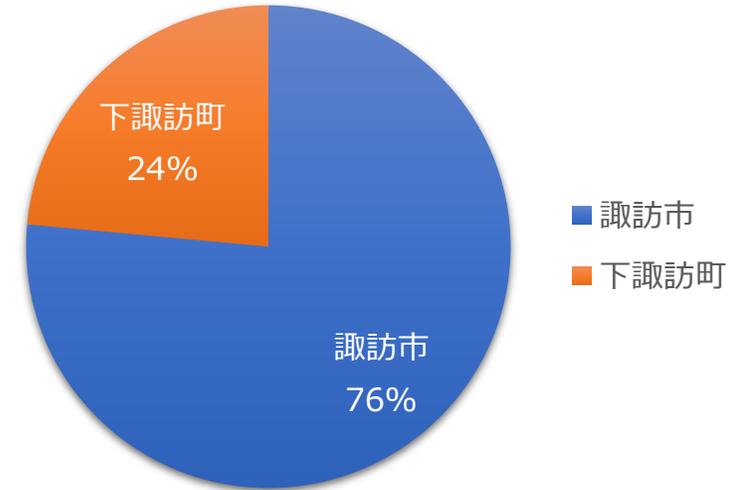
【年齢】



【性別】



【居住地（諏訪市or下諏訪町）】



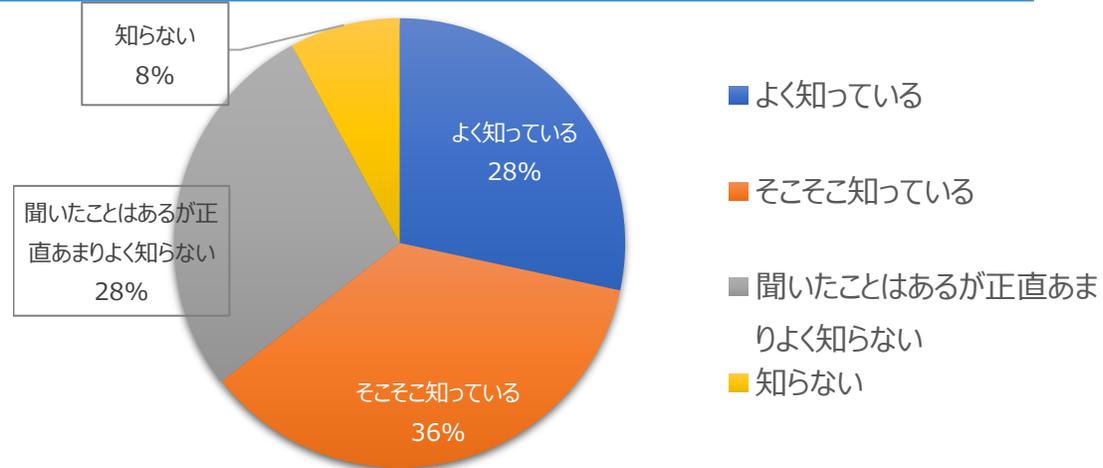
【今回のアンケート回答者の傾向】

- ①男性女性比率は平成26年の意見聴取の際よりも実態に近い値となり、女性の割合が高く意見を聴取できた。
- ②回答者の属性として、地域の実態と比べ、40代～50代の回答が多く、平成26年の調査と比較し1世代若年層の回答を得られた。

4. アンケート結果

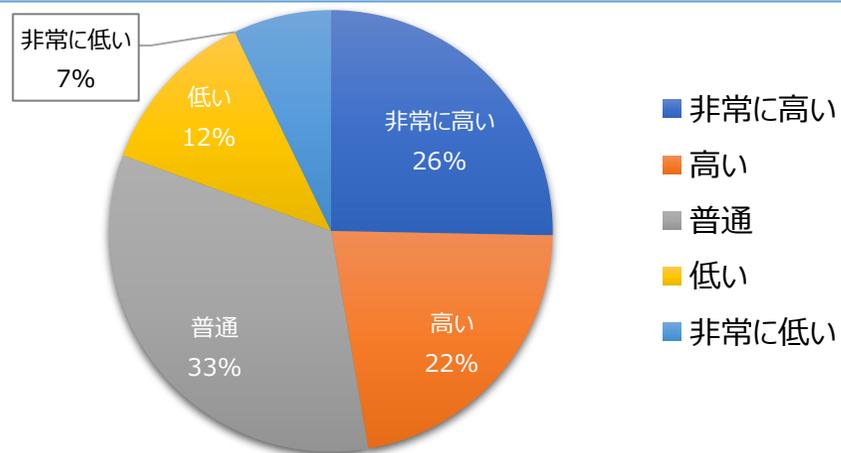
【諏訪市・下諏訪町編・バイパスの認知・関心度】

問①あなたは諏訪バイパス事業を知っていますか？



「よく知っている」～「そこそこ知っている」が全体の64%であり、まだ36%の市民がこの事業に対してあまりよく知らないという状況。

問②あなたの諏訪バイパスへの関心はどのくらいですか？

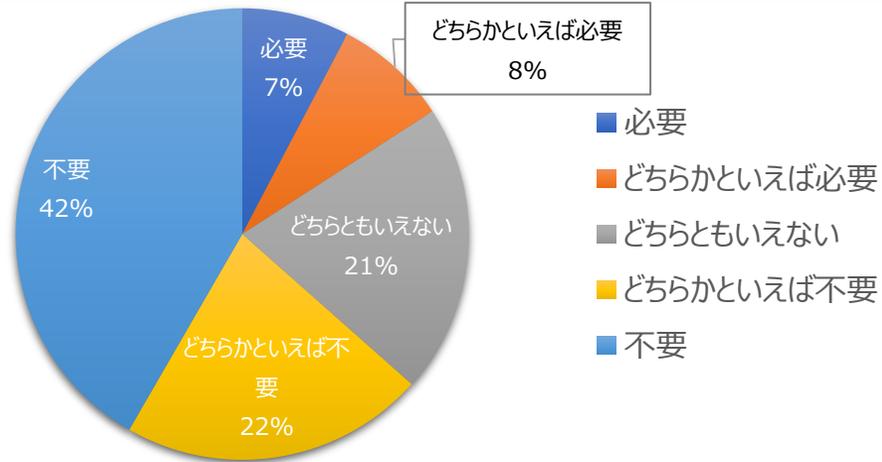


「非常に高い」～「普通」までが全体の8割となっており、認知度より無関心層が低い水準となっている。認知度と関心度の相関により、「関心は無くもないがよく知らない層」の存在もある状況がわかる。

4. アンケート結果

【諏訪市・下諏訪町編・道路整備の必要性】

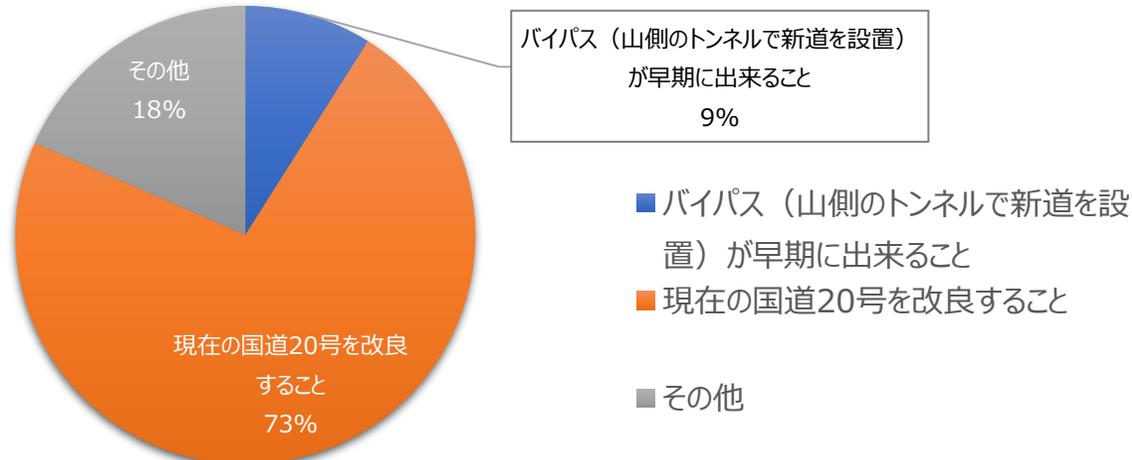
問③あなたは諏訪バイパス（山側ルート）についてどう思いますか？



諏訪市・下諏訪町限定回答においても「不要」～「どちらかといえば不要」が全体の64%であり、「必要」～「どちらかといえば必要」が15%の状況。山側ルートに対する「環境変化へのリスク懸念＞必要性」の一定の意見が顕在化した状況。

※平成26年の意見聴取の後、平成28年の山側ルート決定発表

問④あなたの生活にとってどちらがより重要ですか？



諏訪市・下諏訪町限定回答においても「現在の国道20号を改良すること」と「山側ルート案のバイパス早期実現」では生活における重要度が高いのは現道整備であることが顕在化した状況。
※灰色部、意見多数に12ページ参照

5. アンケート結果【自由記述・意見を伝えよう】

自由記述総括 (データは第2部添付)

1、「環境影響評価」「都市計画案」などの縛りなく自由記述としたことで、アンケート総数の約半数が自主的な意見の記載があった。

2、意見の分類・数値

①意見総数 316件

②そのうち「事業計画と現代の都市計画ニーズのギャップ」や、「進め方の透明性」「説明不足」など『事業の進め方』『計画のそのもの』の見直しが必要とする意見が86件と最多の状況。

③次いで環境への影響への懸念を軸とする意見が62件となり温泉や水質への懸念は年齢層も広範囲に見られた。

	カテゴリー	自由記述数
1	ゼロカーボン・SDGs	9
2	必要性を感じない	32
3	現道改良要望	31
4	環境保護要望	62
5	安全なまちづくり要望	8
6	進め方や計画の見直し必要	86
7	税金使途の見直し要望	26
8	トンネル工事・断層への懸念	17
9	総合的に懸念	13
10	新道建設必要性あり	15
11	その他	17
	意見合計	316

4. アンケート結果【総括】

①サンプル調査の結果として平成26年の住民意見聴取時よりも若年層の意見を多く得ることとなり、一定の層に山側トンネル案に懸念があることが顕在化した。

- ・代替路であるトンネル工事に対する懸念・不安
- ・20年後自動車が減少する社会に代替路が必要なのかという懸念
- ・災害対応は必要だが、20年後完成する対策では困るという現状への不安

②今回限られた費用でのアンケート活動となったが時代の変化で住民意見にも変化があったことはデータから明らかとなった。都市計画においても時代の変化に追従した見直しがあって然るべきと考える。